

福祉の学び舎 6

満州事変から15年に及ぶ戦争に敗れ、日本は食糧難とインフレにあえいだ。「食糧の増産に水を」。たびたび干ばつに泣いてきた愛知県・知多半島の農民の要望を受け、「愛知用水」工事が始まったのは1957(昭和32)年である(61年通水)。

幹線水路約113km。岐阜県で取り込んだ木曽川の水は名古屋市東部を経て半島の突端へ、さらにその先の離島まで農業や工業の用水、飲み水として5市5町(人口計約63万人)を潤す。

その着工の4年前(1953年)。日蓮宗僧侶・鈴木修学(1902〜62)の努力で「中部社会事業短期大学」は全国で3番目の福祉系短大として名古屋市昭和区に誕生した。「悩める時代の苦難に身をもって当たり……社会の革新と進歩のために挺身する志の人を」(修学「建学の精神」)。と、今年はそのから70年目。半島を丸ごとフィールドに8学部10学科6大学院研究科を擁する日本福祉大学へと成長した。

日本福祉大学 ①

「身をもって苦難に当たれ」

長(67)の口調は熱っぽい。

ルーツは法華經



短大から大学へ看板を掛け替える鈴木修学。足元には古い門札が

濃尾平野の北部、木曽川沿

れている(これを機に「昭徳会」と改称)。しかし、たじろることなく戦後も育院や少年寮の経営を引き受け、街

阪公立大へ改組)に続いて名古屋でもという修学の意見に法言寺の檀信徒は呼応。厚生省も支援する方針だったとい

(1900〜81)を中心に、今岡健一郎(社会事業)、近藤浩一郎(発達心理)らを助教授陣に据えた。そのひとり

丸山悟理事長

知多郡半田町(現・半田市)で育ち、1916(大正5)年に日本女子大学校英文科を卒業。アメリカのシモンズ女子大、ハーバード大学で社会学や教育学を学んだ。帰国し、東京の聖路加国際病院で

「地域と世界を視野に入れ、大学の人材や知識をもって100歳まで生涯学習できる福祉文化をつくり、すべての人がふつうのくらしのしあわせを追求できる社会を実現する——これが大学のミッションです」。ふくしの総合大学」として「知多半島モデル」構築を目指す丸山悟理事長

ハンセン病や児童養護の施設、方面委員(現・民生委員)などで活動。実務上の責任者を務める財団法人「大乘報恩会」に歴史的な言動などがあるとの理由で、理不尽にも彼は特高警察に58日間も拘留さ

GHQ(連合国軍総司令部)のリードで1950年3月に設置許可・開学した日本社会事業短大(現・日本社会事業大)と大阪社会事業短大(現・大阪府立大、今年4月に大

MSWの草分け



学生と懇談する浅賀ふさ教授(中央)

生一人一人に会って、めいめいの関心のある処を引出す話しあいの中から……論議をきめることができました(「日本福祉大学の五年」より)

日本福祉大メモ

名古屋キャンパス(大学院)と知多半島の美浜(社会福祉、教育・心理、スポーツ科学、福祉経営<通信教育>)、半田(健康科学)、東海(経済、国際福祉開発、看護)の3キャンパス8学部に計1万2900人(うち通信教育約7000人)の学生が学ぶ。

理事長=丸山悟▽学園長=鈴木正修(法言寺山首・社会福祉法人昭徳会理事長)▽学長=児玉善郎

福祉社会開発研究所、地域ケア研究推進センターなど13研究機関や中央福祉専門学校、クリニック、附属高などを持つ。国内外10カ所に地域オフィス・サテライトがある。